

日韓トンネル通信

編集/発行
特定非営利活動法人
日韓トンネル研究会

事務局：東京都千代田区飯田橋4-1-11
〒102-0072 信濃ビル6階
TEL 03-3265-8813 FAX 03-3237-1012
E-mail office@jk-tunnel.or.jp

九州支部：福岡市南区老司3-5-28-605
〒811-1346
TEL 092-556-7110
☎0120-09-2188



九州支部報告会

(報告)九州支部報告会が開かれました。

九州支部の第10回報告会が、去る10月16日(水)、ホテル福岡ガーデンパレスで開かれた。内容は、去る6月5日、東京で開催した総会の議事報告で、それに先立ち講演会が行われた。講演会のテーマは、「福岡と釜山間の人的交流の現状を知り、日本と韓国が陸路で結ばれた時の観光交流を考える」というものである。

祝電披露の後、佐々木和資副支部長が開会を宣言し、野澤太三会長が講演会の趣旨について以下のように述べた。

「2018年には韓国のピョンチャン(平昌)、2020年には東京で夏季オリンピックが開かれます。この冬と夏のオリンピックの成功の

ために日韓両国が協力しあうことは何ら異議なくお互い知恵を出し合って取り組める課題だと思います。観光と五輪運動さらには最大の課題の日韓トンネルの実現に向けて互いに協力することを通じ、日韓の道が開かれ、心の通い合うトンネルを掘ることが可能になります。皆様方もそれぞれの立場で二か国間に心のトンネルを繋いで頂き、昨今の困難な状況を打開していけるようご協力をお願いします」

講演1

【演題】：釜山・福岡アジアゲートウェイ

【講師】：姉川雄一(福岡市経済観光文化局
観光コンベンション部 プロモーション
推進課 課長)

【要旨】：福岡市は千キロ圏内にソウル、釜山、青島、上海、大阪、東京等があり、アジアのゲートウェイとして発展してきた。現在、年間77万人の外国人が来福し、うち47万人が韓国からのお客様である(図-1)。



姉川雄一講師

福岡と釜山間は200キロと近く、日常的な交流エリアと呼べる。この2都市がひとつの経済圏になれば、北京、上海、ソウル、大阪、東京に比肩し、さらに九州全体と

韓国南東圏を含むより大きな経済圏づくりを目指した取り組みが可能となる(図-2)。

具体的な中身は、①経済面では福岡・釜山ビジネスCEOフォーラムの開催、両市の市役所内に経済協力事務所を設置、②文化面では、日韓映画上映交流、ファッション連携事業、③教育面では小学校での副読本活用授業、④一体感を深めるため、共通の手提げとパンフレットを作成し配布、⑤一般的な交流事業として、プロ野球交流戦、生活観光パンフレットの作成、韓国語で福岡の観光案内をする無料Wi-Fiの導入、などがある。

福岡と釜山を取り巻く環境は大きく変化している。ソウルと釜山はKTXで約2時間で繋がり、釜山港は世界有数の港湾に発展した。福岡は九州新幹線の開通で関西からの観光客が阿蘇や鹿児島に行くルートの拠点となった(図-3)。また上海や天津からの大型クルーズ客船の博多港寄港が急増している。今後、福岡・釜山一貫圏としてこれらの観光客を誘致すると共に、その観光客が福岡と釜山を相互に行き来する人の流れを惹起するツアーづくりが急がれる。

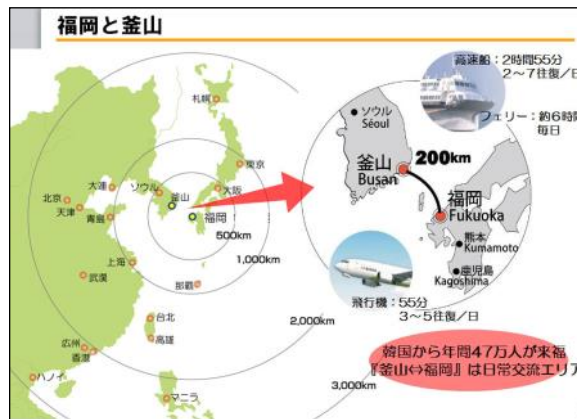


図-1 釜山と福岡

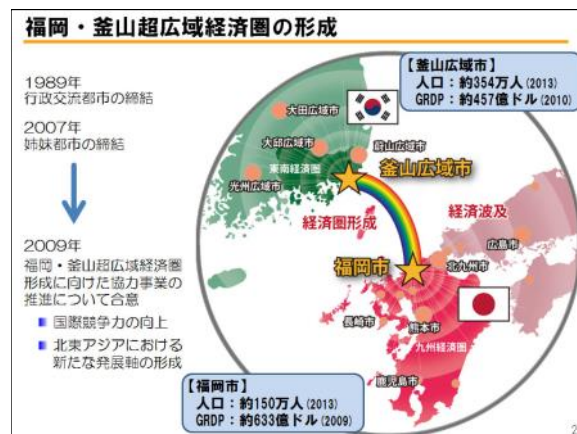


図-2 福岡・釜山超広域経済圏の形成

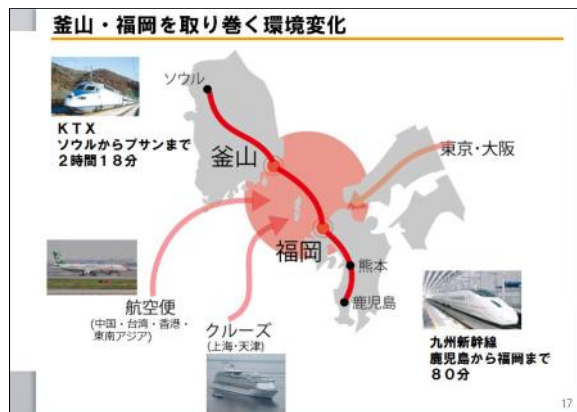


図-3 福岡・釜山を取り巻く環境変化



図-4 今後の方向性

講演2

【演題】：オリンピックと日韓トンネル

【講師】：野澤太三（当会会長）

【抜粋】：姉川様のお話にあったように福岡・釜山圏が一体となり行動することが大切である。日韓トンネルにより行動圏が拡大し、韓国のお客様に人気が高い福岡、熊本、別府なども



韓国からの一日行動圏となり、日本から見ても韓国の主要観光地が身近になり、心の通い合いが深まる（図-5, 6）。

オリンピックは、日韓トンネルを進めるうえでも大切な両国国民の信頼を深めるよい機会となる。すでに2018年の冬と、2020年の夏のオリンピックが韓国のピョンチャン（平昌）と東京に決定している。

私は1998年開催の長野オリンピックで一つの国を一つの小中学校が応援する「一国一校」運動を推進した。選手が一人という小さな国でもその国旗を作り皆で応援した。それがご縁で今も交流が続いている国や町がある。

一つの競技でメダルを取るのわずか3人だが多数の方が参加している。その方々が「よかった、また行きたい」と思うオリンピックとすることが一番大事である。

長野オリンピックの経済効果は、初期投資約1.7兆円に対し、生産誘発効果は4.7兆円と大きい。あとで不景気となったという声もあるが、オリンピックのため新設した施設や新幹線・高速道路は大きな財産となった（図-7）。

先月、日韓両国は五輪成功に向けて全面協力しあうことで合意した。日韓トンネルも実行可能なプラン作りと体制を固め、トップの決断を待つ時期が来ている（図-8）。

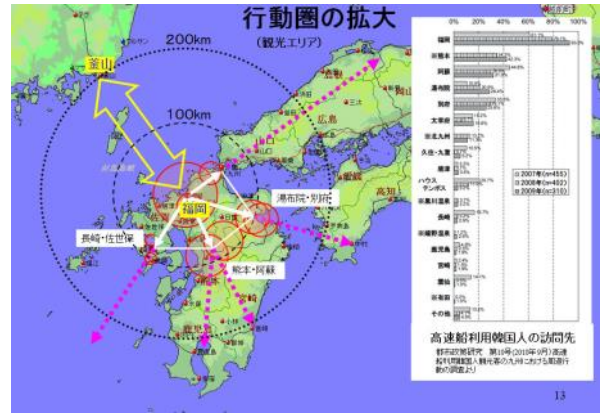


図-5 日本側の行動圏拡大



図-6 韓国側の行動圏拡大



図-7 長野オリンピックの施設

日韓が五輪成功へ全面協力

18年冬季と20年夏季 両国会長が会談 2013.9.10

日本オリンピック委員会(JOC)の竹田恒和会長と韓国オリンピック委員会(KOC)の金正華会長は9日、プエノスアイレスで会談し、韓国で開催される2018年平昌冬季五輪と20年東京夏季五輪の成功に向け、全面的に協力することで合意した。

日韓関係が冷え込む中、東京の五輪招致成功を機に新たな動きが生まれる可能性もある。

日本には過去2度の冬季五輪を開催したノウハウがある一方、韓国は昨夏のロンドン五輪で日本の倍近い金メダル13個を獲得するなど近年は競技力で勝っている。両者は選手の交流も促進させる。

竹田会長は「両国の関係がしっくりいっていないときでも、スポーツは互いの理解を深めることに貢献できる」と述べ、金会長は「われわれの交流と相互協力は現在の両国の関係を好転させることができると確信する」と応じた。

41

図-8 日韓両国の五輪協力

(訃報) 当会副会長の濱建介氏がご逝去されました。謹んでお知らせいたします。

当会副会長の濱建介氏が去る1月2日逝去した。89歳。



故濱建介副会長
(英仏海峡トンネル視察時)

濱建介氏は長野県に生まれ、東京帝国大学の土木工学科を卒業。1947年に運輸技官として建設省鉄道総局に入局、その後法令により国鉄職員となり、1964年に日本鉄

道建設公団の青函トンネル調査事務所長、1970年に同海峡線調査部長、1979年に同理事就任、1983年に前田建設工業の顧問に就任した。現場主義に徹したトンネルマンとして活躍した。技術士、土木学会名誉会員。

濱建介氏は30年前の1983年9月に当時任意団体であった日韓トンネル研究会に入会し、青函トンネル建設に直接携わった経験を生かし、日韓トンネルの路線、設計、施工を担当する第3部会で中心的役割を果たした。2004年に当会副会長に就任し、地質学専門の高橋彦治会長を設計施工面から支え、その後、2007年に会長に就任した野澤先生と共に韓国の大韓土木学会や釜山での研究セミナーで日韓トンネルのルート選定などについて詳しく講演するなど、幅広く活躍した。心からご冥福をお祈り致します。

(報告) 第4回トンネル工法勉強会が開かれました。

去る2月4日(火)、千代田区飯田橋の当会本部で第4回トンネル工法勉強会を開催した。冒頭、故人となった濱建介副会長に対し黙とうを捧げた。

報告事項では、昨年10月の関門・新関門トンネル視察、対馬海峡西水道に関する既存公表資料による水深調査、日韓・韓日協力会の合同総会の様子などについて説明があった。

本日の中心テーマである「海底地下構造物に及ぼす地下水の影響」では、担当研究者である藤橋健次常任理事(技術士)から調査方針の説明があり、収集すべき資料のリストおよびその収集方法などについて話し合った。

(報告) 日韓・韓日協力委員会合同総会に参加しました。

去る11月15日(金)帝国ホテルで開かれた第50周年合同総会に野澤太三会長と事務局員が出席した。メッセージ文のなかで安倍総理は「日韓両国は基本的価値と多くの利益を共有する重要な関係」と強調、朴槿恵大統領は「両国は信頼に基づいて未来志向の関係を築いていけることを期待する」旨を表明した。

(書籍紹介)



◇書名：至誠、天を動かす
—大韓民国独立運動の父—
島山安昌浩の思想と生涯

◇出版：現代書林 310頁

◇著者：李光珠、具末謨 訳

昨年6月開催の総会の記念講演で永野慎一郎博士(当会理事)が紹介した「伊藤博文と安昌浩の対話」などを収録。独立運動家でありながら戦いの対象である日本にも敬意を持ち続けた崇高な思想の持ち主で、その生き方は日韓両国の歴史研究家から高く評価されている。本書は絶版だがネットで古本の入手が可能。